

小学校4年 道徳の時間 学習指導案

「情報の発信や情報をやりとりする場合のルール・マナーを守る」

日 時：平成 年 月 日（ ）

場 所：

授業者： 教諭 柳井 雅衣

1 主題名 みんなの場所を大切に

資料名 日曜日のバーベキュー（道徳4「ゆたかな心で」東京書籍）

2 主題について

(1) ねらいについて

本主題は、内容項目4―(1)「約束や社会のきまりを守り、公德心をもつ。」を受け、社会のきまりや約束を守ることの大切さについて考え、公德を大切にしようとする態度を育てることをねらっている。社会や集団の一員として他者とともに生きるには、社会生活上のルールや基本的なモラルの重要性を感得し、進んで守ろうとする態度を育てていくことが大切である。

昨今、インターネットや携帯電話などの普及が急速に進む中で、児童生徒がトラブルに巻き込まれる事件や、チャットやブログへの悪口の書き込み、メールによるいじめなど新たな問題も発生している。このようなモラルに反する行為の背景には、匿名性が高いことで規範意識が薄らいだり、インターネットだから特別に許されているような錯覚に陥ったりすることがあると考えられる。

学校生活にも慣れ、気の合う仲間と約束事を決め、自分たちで決めたことを大切にしようとする傾向があるこの時期の児童に、改めて公共物とのかかわりや社会生活の中で守るべきルールについて考えさせることは、情報社会における正しい判断や望ましい態度を育てることにもつながる。互いに気持ちよく生活していくために、自分を律し、適切に行動できる正しい判断力を持ち、よりよい生き方をしていこうとする児童の育成を目指し、本主題を設定した。

(2) 児童の実態について（在籍数〇〇人）

アンケートの結果は以下の通りである。

- 身の回りにどんなきまりがあるか。
 - ・飛び出しをしない ・ヘルメットをかぶる ・ごみはごみ箱に捨てる
 - ・廊下を走らない ・名札をつける ・使った物は片付ける
 - ・遊びに行くときには家の人に言ってから行く ・5時までに帰る など
- きまりを守ることは大切だと思うか。
 - ・とても大切（○） ・大切（○） ・あまり大切ではない（○） ・大切ではない（○）
 - 理由 { ・守らないと怒られるから ・けがをするから ・命にかかわるから
 - { ・人の迷惑になるから（相手のことまで考えた理由を挙げた児童14名）など
- 最近きまりを守れなかったことがあるか。それは、どんなことで、どんな理由か。
 - ・ある（○） ない（○）
 - 内容 { ・廊下を走った ・時間を守れなかった ・信号無視 ・自転車2列走行
 - 理由 { ・急いでいたから ・面倒くさかったから ・楽しそうだったから
 - { ・これくらいいいかと思ったから ・もう少しなら大丈夫と思った など

本学級の児童は、きまりは大切であるということは分かっており、なぜきまりが必要かも分かっている。きまりを守らないと人に迷惑がかかることや、相手や自分も気持ちよくないと気付いている児童もいる。しかし、実際の生活では、きまりを守れなかった経験をほとんどの児童が持っている。きまりの向こうにある「相手」についてじっくりと考えることを通して、自分の安易な行動が周囲に影響を及ぼすことに気付かせていきたい。

また、携帯電話やインターネットについてはほぼ全員が利用したことがある。しかし、操作に不慣れなために生じる困り感を持ったことがある児童がほとんどで、影の部分についての経験はまだないというのが実態である。

(3) 資料について

主人公のぼくは、家の玄関先に置いてある母の自転車のかごにごみが入れられて嫌な思いをした経験が何度もある。しかし、家族と河原でバーベキューをした時に、「ごみ捨て場ではない」という立て札があったにもかかわらず、つい、その場にごみを捨ててしまう。家に帰ると、また自転車のかごにごみが入れているのを見て、自分が捨てたごみのことを思い出すという話である。主人公の心情を考えることを通して、きまりに対する自己の姿勢を問い直すことができる資料である。

(4) 指導にあたって

ア 導入では、ねらいとする価値に目を向けさせ、本時への課題意識を高めることができるように、写真を活用し生活体験を想起させる。

イ 自転車のかごに入れられたごみと河原に残してきたごみとを重ね合わせながら、社会のきまりや約束を守ることの意味や大切さについて深く気づかせ、公德心をはぐくむ。

ウ 終末は、決意表明を強いることなく、余韻や充実感、希望を感じさせながら終わるようにする。

(5) 情報モラル教育の視点から

ア 本時は、「モデルカリキュラム」の目標「2. 法の理解と遵守」、項目「c 2-1：情報の発信や情報をやりとりする場合のルール・マナーを知り、守る」との関連を重視して展開する。

イ 本時の展開においては、きまりを守らない人がいても、また、だれも見えていなくても、自分を律し、適切に行動しようとする正しい判断力やきまりを守ろうとする公德心をはぐくむことができるようにする。また、終末において、情報モラルと関連づけた説話を行い、情報モラルのねらいもおさえる。

ウ 「心のノート」を活用し、日常生活でルールやマナーを守ることのよさを実感させる。

エ ルールやマナーを意識する場として、芸術鑑賞会や社会科見学など学校行事を生かす。

(6) 人権教育の視点

ア 自分の考えを、自信を持って発表できるような支持的風土づくりに努める。

イ 他の人の意見も尊重しながら、ともに学習しようとする態度を育てる。

3 指導計画

※道徳では、1時間取り扱いであるため、5のモデルカリキュラムの位置づけを参照する。

4 本時の学習 (1 / 1時間)

(1) ねらい

社会のきまりや約束を守り、公德を大切にしようとする態度を育てる。

(2) 展開

過程	学習活動と主な発問○指示・	予想される児童の反応	指導上の留意点と評価
導入 5分	1 写真を見て話し合う。 ○ この写真にはどんなきまりがありますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみはごみ箱に捨てる。 ・トイレのスリッパを並べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共の場の写真を見て、身近なきまりについて話し合うことで、道徳的価値の自覚に向けて動機づけを図る。
展開 35分	<p>みんなのきまりについて考えよう。</p> <p>2 資料を読んで話し合う。 ・お話を聞きましょう。</p> <p>○ぶつぶつ言いながらごみを片付けるお母さんを見て、「ぼく」はどんなことを考えたのだろう。</p> <p>○立て札を見て「まずい」と思ったのに、ぼくがごみをそのままにしてしまったのはどんな気持ちからだろう</p> <p>○みんなもしているからとか誰も見ていないからいいやという気持ちになったことはあるかな。</p> <p>○それは誰にでもあるかな。</p> <p>◎空き缶を片付けるお母さんを見ながら、自分が捨ててきたごみのことをまた思い出して、ぼくはどんなことを考えているのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シートに書きましょう。 ・お隣の人と話しましょう。 ・考えを発表してください。 <p>○もし、きれいにすることができたら、ぼくはどんな気持ちになるだろう。</p> <p>3 自分自身を振り返る。</p> <p>○誰も見ていないときでも、きまりを守れたことがありますか。</p> <p>○そのときはどんな気持ちでしたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・どうして人の家に捨てたりするのだろう。 ・お母さんの自転車はごみ箱ではないのに、腹が立つな。 ・みんなも捨てているから。 ・少しくらいはいいだろう。 ・誰も見ていないからいいや。 ・持って帰るのが面倒だから。 ・ある。 ・わたしにもある。 ・自分もこれくらいいいやという気持ちがあった。 ・自分も捨ててきてしまった。 ・悪いことをしてしまったな。 ・ぼくも捨てたから、またごみが増えるかもしれない。 ・あのごみの山を片付ける人は怒っているだろうな。 ・今からでもお母さんに頼んで片付けに行きたい。 ・すっきりするだろうな。 ・心のもやもやが晴れる。 ・特別教室に行く時に、静かに移動することができた。 ・車は通っていなかったけど、青信号になるまで待った。 ・正しいことができて気持ちよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が場面絵やキーワードを提示しながら読み聞かせる ・ほんの少しのごみでも、捨てられた側は腹が立ち、迷惑だと思ふことに共感させる。 ・きまりを知りながらごみをそのまま捨ててきてしまった主人公の心の葛藤を共感的にとらえさせる。 ・その後「自分はどうか」と自分自身との対話を深める発問を組み、匿名性を悪用したり、自分の都合のいいようにしようとしたりする人間の弱さや醜さについて確認する。 ・自転車のかごのごみと河原に置いてきたごみを重ね、自分の行動を後悔する主人公の気持ちに共感させることを通して、だれにも見られていない場合でも、自分の公德心に従って行動しようとする心情をはぐくむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>評価 主人公の心情に沿った言葉が書けている。 (ワークシート・発言)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・自分自身を振り返り、きまりや約束を守りたい思いがあることに気付かせ、これからの自分に夢や希望が持てるようにする。
終末 5分	4 教師の説話を聞き、学んだ心を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・誰にも分らないからいいやときまりを破ったことがあったけど、いけなかったな。 ・きまりを守ると自分も相手も気持ちがよいものだな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラルの指導内容と関連づけた公德心のあり方にかかわる話を行い、自己の生き方についての考えを深められるようにする。

5 モデルカリキュラムの位置づけ

情報モラル	道徳、各教科・特別活動 他
a2：発信する情報や情報社会での行動に責任を持つ。	国語 伝えたいことを伝えよう「新聞記者になろう」 目的や読み手を意識しながら分かりやすく書く。
b2：情報に関する自分や他者の権利を尊重する。	道徳 友情の大切さ「とべないホテル」 2－(3) 友情・信頼「友達と互いに協力し合い、助け合っていこうとする心情を育てる。」 道徳 心の通い合い「『ありがとう』の言葉」 2－(1) 礼儀「あいさつの言葉の意味や礼儀で通い合う心の大切さを知り、だれに対しても真心を持って接しようとする態度を養う。」 国語 材料の選び方を考えよう「4年3組から発信します」 学校や地域にあるものについて知らせるために取材し、相手や目的に応じて材料を選び、分かりやすく伝える。
c2：情報社会でのルール・マナーを遵守できる。	道徳 みんなの場所を大切に「日曜日のバーベキュー」 4-(1) 規則の尊重・公德心「社会のきまりや約束を守り、公德を大切にしようとする態度を育てる。」(本時) 社会 健康なくらしとまちづくり「ごみのゆくえ」 環境センターのしくみや働いている人々の努力や願い、ゴミ出しのルールやリサイクルについて考える。
d2：情報社会の危険から身を守るとともに、不適切な情報に対応できる。	
e2：情報を正しく安全に利用することに努める。	
f2：安全や健康を害するような行動を抑制できる。	道徳 健全な生活態度「目覚まし時計」 1－(1) 節度ある生活態度「時間を大切にし、規則正しい生活をしようとする心情を育てる。」 道徳 よく考えることの大切さ「けいたい電話の落としあな」 1－(1) 節度ある生活態度「何ごともよく考えて行動しようとする態度を育てる。」
g2：生活の中で必要となる情報セキュリティの基本を知る。	
h：情報セキュリティの確保のために、対策・対応がとれる。	
i2：情報社会の一員として、公共的な意識を持つ。	学級活動 班活動や係活動などを友達と協力して行う。